

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年3月31日

事業所名 はつかぜ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	30%	70%	お子様の特徴により転倒やけがなどを回避できるよう支援スペースの細かな環境整備に努めている。	移転を検討中で出来る限り良い環境で支援できるようにしていきたいと思っている。お子様の特徴、利用人数が7人になる場合など、もう少し広いスペースが必要だと感じている。
	2	職員の配置数は適切である	60%	40%	重症児デイサービスの事業所で、基準より多い職員配置を行い可能な範囲でマンツーマン支援を行っている。	年度末にかけ退職による人員減があり現在確保のために募集を行っている。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化され多環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	60%	40%	クッション性良いマットを敷きつめている。また、リラクステアを使用し重症心身障がい児が長時間でも過ごしやすい環境に努めている。	エントランスの4段の階段はスロープを利用していること、福祉用トイレがない、フロア内に低い段差があることが課題である。根本的な解決には移転が必要で検討を続けている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	78%	22%	支援室にはクッション性の良いマットを敷き安全に過ごしやすい環境になるよう心掛けている。	お子様の特徴に合わせ別室などを使い支援することも考慮する必要がある。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	全スタッフで業務改善など話し合っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年事業所評価は行っており結果はホームページ上に公表している。また、6ヶ月ごとのモニタリングは面談または電話で行いその際、保護者の意向など伺っている。また、送迎の際にも相談など行うことも多い。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	毎年事業所評価、保護者評価を行い、検討した結果をホームページ上に公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%	現在外部評価は受けていない。重要事項説明書に明記している。	必要であれば実施する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	事業所内研修を6回/年実施している。様々な研修を行っている。また、外部研修や研究会等にも参加している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	モニタリングは6ヶ月ごとに実施しニーズの把握に努めている。可能な限りで面談で行っているが難しい場合は電話でのモニタリングを行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	標準化された重症心身障がい児を対象とするアセスメントツールがなく事業所独自の物を使用している。	重症心身障がい児に合ったアセスメントツールがあれば使用したい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	支援計画には「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目を設け目標を立案し個別性のある具体的な支援内容を記載している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	作成した支援計画は職員に回覧し周知を行い、日々の支援を行っている。モニタリング前にはスタッフ全員で各項目の達成度の検討、次期計画の見直しを行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	毎月行っているスタッフ会議では2か月先のプログラムを立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	月単位の導入プログラムと週間プログラムを提供している。導入プログラムは幼児向けとなっており児童発達支援では全員に利用日に行っている。週間プログラムは経験になるよう様々なプログラムを提供している。季節を感じたり、知育的要素も取り入れることもある。	コロナ感染症5類移行に伴い月1回のイベント(音楽コンサートや遠足など)プログラムを再開した。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	集団での活動は日々のプログラムで実践している。個別の活動は支援計画に立案し随時実践している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日昼礼を行い、前日の申し送りやその日の支援について話し合っている。	送迎に出るスタッフもいるため業務日誌に記載する。また口頭での引継ぎを行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	70%	30%	個人の支援記録、業務日誌に記載し情報共有を行っている。	支援終了と共に送迎に出るスタッフが終了後の振り返りが難しい。記録に残す事(個人支援記録や業務日誌)を徹底し昼礼で申し送りを行っている。また、スタッフ会議で情報共有、検討を行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援記録は個人記録に記載し、会議での利用者情報の共有に生かしている。また、支援計画見直しにも活用している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	全利用者に6か月ごとのモニタリングと支援計画の見直しを行っている。モニタリング前には全スタッフで見直し検討を行っている。	
関係機関や保護者との	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	90%	10%	保健師や相談支援員の問い合わせや見学等もあり密に連携出来ている。	事業形態など新しいスタッフへのオリエンテーションをしっかりと行う。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	支援会議やカンファレンスへ参加している。地域の教育機関(幼稚園、学校)への保育所等訪問支援を通して支援、連携を図っている。	保護者からの保育所等訪問支援の依頼は多いが支援学校への訪問は受け入れがなく実施できない状況がある。体制が整えばいいと思う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	90%	10%	医療的ケアがある場合はすべて指示書への記載をお願いしている。病院で行われるカンファレンスには積極的に参加している。ICTツールを通して連携出来ているケースや嘱託医に相談、アドバイスを頂くこともある。	保護者が間に入るケースがほとんどである。直接主治医と連絡、相談できる機会は少なく、連携できる体制構築が望まれる。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	保育所等訪問支援を通して支援しているケースが数件ある。また、支援会議が開かれる時は必ず出席している。就学前の施設への訪問も受け入れている。関係機関から情報共有を求められることはあまりない。	左記関係機関から情報共有を求められることはあまりないが求められれば連携して行きたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	保育所等訪問支援を通して支援しているケースが数件ある。また、支援会議が開かれる時は必ず出席している。学校等から情報共有を求められることはあまりない。	学校等から情報共有を求められることはあまりないが求められれば連携して行きたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	43%	カンファレンスなど積極的に参加し、他事業所やセンターとの連携を図っている。母を通して訓練見学の予約をしたり助言をもらっている。	数年、コロナ渦にあり研修の機会はなかったが、今後は以前のように研修に参加していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	11%	89%	保護者のニーズがあれば検討するが感染予防、体調管理の面から難しい。	今後も行う予定はない。重症心身障がい児が対象であり体調管理、感染予防の観点から必要性を感じない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	78%	22%	当事業所相談支援員、医療的ケアコーディネーターが自立支援協議会(権利擁護部会、相談支援部会)に参加し報告している。また、管理者は通所事業所連絡会に参加している。	事業形態など新しいスタッフへのオリエンテーションをしっかりと行う。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎の際、その日の支援の様子を伝えたり、連絡帳に支援内容などを記入している。また、モニタリングでは保護者と一緒に課題について話し合っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	90%	10%	体調面やケア内容、方法、福祉制度など様々な情報を伝えている。また、相談やアドバイスを行うこともある。	勤務形態から保護者対応する機会が少ないスタッフがいる。支援した対応内容などの報告は行っている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	独自のフェースシートに基づき保護者からの情報収集を密に行い、異職種のスタッフとの意見交換などを経て支援計画作成を行っている。また、支援計画は児童発達支援管理責任者から保護者に説明し同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎の際に相談を受けアドバイスすることも少なくない。各モニタリングの際は対面または電話で様々な相談を受けることがある。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	年2回の保護者会を実施している。その際、保護者のニーズに合わせ講演を企画することもある。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	保護者と一緒に考え相談しながら支援していく方向性である。送迎の際や電話での問い合わせなどにもタイムリーに丁寧に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	ホームページ上にブログを公開しひと月ごとの活動報告、次月の活動予定、イベント情報などを掲載している。また、保護者へは連絡帳で更新情報を伝えている。	
38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	取り扱いについて同意書で確認している。	常に細心の注意を払い取り組んでいる。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	日々の支援は利用者の意思を感じ、寄り添う支援を心掛けている。保護者とはモニタリングなど十分な時間をかけ意思の疎通を図っている。現在、配慮が必要なケースはない。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	70%	30%	再開したイベントでは事業所や地域センターでコンサートなどのイベントを行っている。家族や兄弟も参加できるイベントも企画している。また、地域ボランティアの協力で畑で収穫体験を行った。	子どもたちの経験を積む意味でも引き続き様々なイベントを継続していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	各種マニュアルは作成し契約時に保護者に配布している。また、数年ごとの改訂を行っている。	緊急時マニュアルは誰もが対応できるよう充実させた。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に一度避難訓練や災害訓練を行っている。今年も消防署に来所してもらい総評を頂いた。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	内服の変更や通院情報などはそのつど共有している。契約時にフェイスシートの記入で予防接種記録は把握している。フェイスシートは3年ごとに更新している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	90%	10%	現在は指示が必要なアレルギーのケースはない。	個人のアレルギーについては把握している。必要であれば指示書に従って対応する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットはスタッフから積極的に報告されている。毎月の会議で報告し対応策、改善策など検討している。また、年度末には分析を行っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止委員会を設置し定期的に日々の支援の振り返りや研修を行っている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	身体拘束に関しては年度初めに同意書を交わし支援計画にも記載している。身体拘束適正委員会を設置し定期的に日々の支援の振り返りや研修を行っている。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。